山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000493
法人名	有限会社 和 のどか
事業所名	グループホーム のんき
訪問調査日	平成 19 年 11 月 1 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 8 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかかぬ場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	673000493		
法人名	有限会社 和 のどか		
事業所名	グループホーム のんき		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡三川町大字猪子字下堀田230番地1 (電 話) 0235-68-1750		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	15 人, 非常勤 人, 常勤換算 13 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 80 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田医院 ・ 谷家歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来、地域の中で生活することをモットーに、地域を支える拠点となり、地域の福祉が充実することができるように活動を展開しているホームであり、また、利用者一人ひとりを大切にしながら、その人にあった役割を持ちながら生活できるように努めているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	どうすればケアの質を向上できるか、理念を实践できるかを会議で話し合いながら、職員全員が評価に目を通して、意見を出し合いながらまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政関係者、地区長、家族、利用者、職員が参加して第3土曜日に行うようにしており、意見、要望、取り組み状況についての話し合いや避難訓練についての意見交換を行い、サービス向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	話しやすい雰囲気作りに努めながら、面会時には家族から意見や要望、不満等を聞くようにしており、出された意見等は随時、改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの祭りに地域の御輿が来てくれたり、地元の小学校の文化祭や発表会にも招待され参加したりしている。また、町内行事の下水清掃に参加したり、毎日の買い物等でも地域の人達とふれあうようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、地域の中で生活をしてきており、ホールにもホームの理念として「地域の中で支える」内容が記された文書を掲示している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所、ホームの理念、ユニットの目標をホールに掲示し、ミーティングや会議時に確認、見直しを行いながら、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの祭りに地域の御輿が来てくれたり、地域の小学校の文化祭や発表会にも招待され参加したりしている。また、町内行事の下水清掃に参加したり、毎日の買い物等でも地域の人達とふれあうようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	どうすればケアの質を向上できるか、理念を実践できるかを会議で話し合いながら、職員全員が評価に目を通して、意見を出し合いながらまとめている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政関係者、地区長、家族、利用者、職員が参加して第3土曜日に行うようにしており、意見、要望、取り組み状況についての話し合いや避難訓練についての意見交換を行い、サービス向上につなげている。		

山形県 グループホームのんき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町が主催する地域密着型事業推進会議のメンバーにもなっており、町との連絡のやりとりが日常的に行われている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状況は、電話、文書、FAX等で報告されており、遠方の家族には郵送もされている。金銭管理の小遣い帳は面会時に確認してもらっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>話しやすい雰囲気作りに努めながら、面会時には家族から意見や要望、不満等を聞くようにしており、出された意見等は随時、改善に向けた取り組みを行っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ人事異動は行わずに馴染みの関係を築くようにしており、退職等による交代がある場合でも、2週間前から引継ぎをして影響を少なくするようにしている。また、担当が変わった場合は、その利用者家族に連絡をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修として、毎月1日の会議の場で理念について確認してから、一つのテーマについてグループ毎に話し合い、発表している。外部研修にも参加しており、伝達研修を兼ねて会議等で発表している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>独自にネットワークを作り、同業者との連絡・相談等を行い、質の向上や交流に努めており、職員の実習や見学等も行っている。</p>		

山形県 グループホームのんき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす時間を多く持ち、コミュニケーションを取りながら利用者から学んだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話ができる利用者の話しをよく聞き、会話ができない場合でも、家族や利用者のまわりの方からも話しを聞くようにしながら、本人の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見・要望を聞き取り、職員と話し合いながら希望等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年から1年で定期的に見直しを行っており、状況に変化が見られ見直しが必要な場合は、家族や主治医と相談しながら随時、新しい計画を作成している。		

山形県 グループホームのんき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	家族の希望を聞いてかかりつけ医を決め、よく連絡を 取るようにしており、定期通院以外にも必要に応じて往 診をしてもらっている。また、家族による通院や職員の 付き添いによる通院も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	協力医療機関として内科医と歯科医を確保してい るが、「重度化した場合における対応に係る指針(「看 取りに関する指針」を含む)」は作成されておらず、重 度化や終末期に向けた支援を行う際の基盤づくりのた めの取り組みが十分ではない。	○	重度化や終末期への対応を進めるにあたり、利用者及び 家族への支援を行っていく際の基盤となる「重度化した場 合における対応に係る指針(「看取りに関する指針」を含 む)」についても検討・整備し、それに基づきながら必要な 支援を行っていく取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者のプライバシーに配慮した声かけや支援に努め ており、記録等の個人情報についても、管理や守秘義 務を認識しながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活支援をするようにして おり、希望を聞きながら対応している。		

山形県 グループホームのんき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備、片付けを行うようにしており、野菜の皮むきや食器の片付け等、できることをできる人が行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後4時半頃から午後9時頃までの間に入浴することができ、一日おきに入浴する人や毎日入浴する人もいる。また、利用者の重度化が進み、職員2人で対応している方が多い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、利用者一人ひとりが食事作りや後片付け、畑仕事や掃除等を、また、雨天時には紐で籠を作ったり、ナツメロを歌ったりしながら、役割や楽しみごとがそれぞれにもてるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や希望に合わせて、散歩や買い物等で外出できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	スタッフは鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけないようにしている。また、外に出て行こうとする利用者がいた場合は、職員も一緒に付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間訓練計画を作成しており、消防署の協力を得て訓練を行っている。火災、震災訓練を年に数回行っており、11月に総合避難訓練を行う予定である。		

山形県 グループホームのんき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態により、必要な人には食事・水分摂取表を作成して、個々の状況の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースで過ごす利用者が多く、落ち着いてゆったりと居心地よく過ごせるように、生活感や季節感を採り入れるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた自分の持ち物を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。		